

- ◆ 宇宙産業は第4次産業革命を進展させる駆動力。他産業の生産性向上に加えて、新たに成長産業を創出するフロンティア。
- ◆ 宇宙技術の革新とビッグデータ・AI・IoTによるイノベーションの結合。小型化等を通じたコスト低下による宇宙利用の裾野拡大。
- ◆ 民間の役割拡大を通じ、宇宙利用産業も含めた宇宙産業全体の市場規模(現在1.2兆円)の2030年代早期倍増を目指す。

宇宙利用産業

<課題>

- ◆ 衛星データの継続性が不足、入手経路が分かりにくい
- ◆ 衛星データソリューションビジネスが立ち上がっていない
- ◆ 事業が立ち上がるまでの安定需要が不足

対応策

①衛星データへのアクセス改善

衛星データの利用促進に向けた環境整備

- 衛星データの種類、保存場所等を一覧化。今後、データの利用方法等も付加。データの継続性強化。
- データ利用拠点(データセンター)の整備

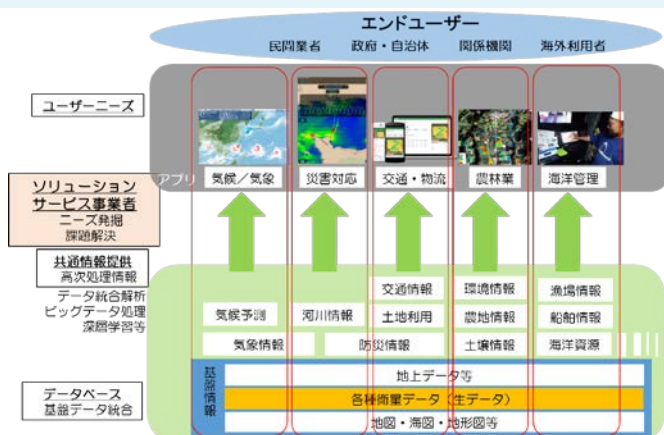
政府衛星データのオープン&フリーの推進

- ベンチャー企業等による衛星データの活用を容易にし、事業の創出を促進

②衛星データの利活用促進

モデル事業の推進

- AI・ビッグデータ解析とその人材の活用
- リモセン衛星や準天頂衛星等の衛星データと地上データを統合した新たな活用事例を創出
- 潜在ユーザーとしての省庁・自治体等と連携して、利用拡大と産業化を図る



宇宙機器産業

<課題>

- ◆ 国際競争力の強化(技術開発、実績、コスト等)が必要
- ◆ 新規参入に向けた技術面でのハードルが高い

(2015年の宇宙基本計画では、『我が国の宇宙機器産業の事業規模として10年間で官民合わせて累計5兆円を目指す』旨記載)

対応策

①国際競争力の確保

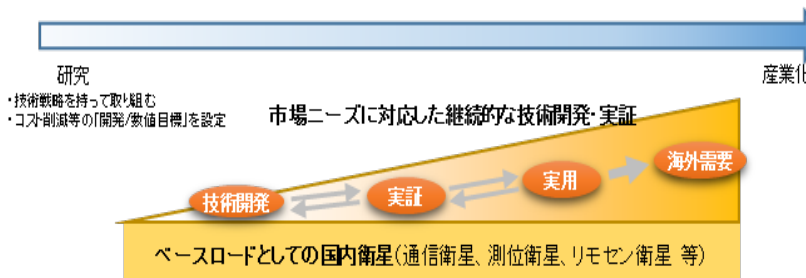
継続的な衛星開発(シリーズ化)

- 市場ニーズに応じた継続的な開発
- **新型基幹ロケット(H3)の開発・推進**

部品・コンポーネント技術戦略の推進

- コスト半減や製造期間の短縮
- キーとなる部品・コンポを選定・開発

調達制度の改善/技術開発支援の強化



②新規参入者への支援

宇宙軌道実証機会の充実

- 実証機会の充実及び関連支援策のワンストップサービス化

小型ロケット打上げのための射場整備

- 指針等の整備及び小型ロケットベンチャーの動向等、市場動向を調査

海外展開

<課題>

- ◆ 相手国の発展段階を意識した戦略的取組、国際連携強化
- ◆ 長期的・持続的な戦略の検討・推進

対応策

相手国のニーズに応じたパッケージの組成・強化

- 経協インフラ戦略会議とも緊密に連携し、機器やサービス、人材育成等パッケージを組成・強化

国際連携の推進

- 準天頂衛星によるアジアやオセアニア向け高精度測位サービスの展開、Galileoとの日欧協力

- APRSAF※1やERIA※2、NASAやDLR等との連携強化

継続的支援コーディネート機能の構築

- プロジェクトマネージャーを新設し、継続的・積極的にプロジェクトを推進

※1. Asia-Pacific Regional Space Agency Forum : アジア・太平洋地域宇宙機関会議
 ※2. Economic Research Institute for ASEAN and East Asia : 東アジア・アセアン経済研究センター

新たな宇宙ビジネスを見据えた環境整備

<課題>

- ◆ リスクマネーが不足し、新規参入者の層が薄い
- ◆ 海外では新たなビジネスを見据えた法整備へ

対応策

新たなアイデアや事業の奨励・振興

- リスクマネー供給の強化
- アイデアコンテストの実施及び事業化支援(S-NET等)

新たなビジネスに対応した制度整備

- 軌道上補償や宇宙資源探査への対応措置を検討

